

# H23年度 大明小学校の教育についてのアンケートの集計結果(保護者対象)

調査対象人数 PTA学校委員 48 人 提出数 48 人

A=そう思う B=ほぼそう思う C=あまりそう思わない D=そう思わない

評価項目	A	B	C	D	
1 学校は教育目標や教育方針を保護者に伝えている。	34	13	1	0	
2 学校は特色ある教育活動を行っている。(大明小学校の特色ある活動：①地域と連携した教育②地域文化(大明小ばやし)の伝承 ③縦割り班活動を中心とした児童会活動)	34	13	1	0	
3 学校は、子どもが学習で努力したことを認めてくれている。	23	24	1	0	
4 学校では、子どもの長所や個性を理解し、教育に当たっている。	16	26	5	0	回答不可1
5 学校は、子どもの様子について連絡したことに、適切に対応してくれる。	30	15	2	1	
6 学校は、子どもの悩みや心配事に気づき積極的に相談に応じている。	17	22	8	0	回答不可1
7 学校からの文書や連絡等は適切である。	27	21	0	0	
<p>※回答不可=担任により、その時の学年により個人差があるので答えることは難しいです。</p>					

8	学校は、地震・災害・不審者対策をよく示している。	32	15	1	0
		<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p>			
9	子どもは、学校に行くことを楽しみにしている。	33	14	1	0
		<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p>			
10	子どもは、学校生活の中で、豊かな心、生き方について学んでいる。	18	29	1	0
		<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p>			
11	子どもは、「早寝・早起き・朝ごはん」の基本的な生活習慣が身についている。	18	23	6	0
		<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p>			
12	子どもは、地域の中で、ルールを守っている。	15	33	0	0
		<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p>			
13	子どもは、地域の行事へ積極的に参加している。	18	27	3	0
		<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p>			
14	子どもは、家庭や地域の中で、あいさつをしている。	14	32	2	0
		<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p>			
15	家庭と学校は、連絡や意思の疎通が図られている。	18	26	4	0
		<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p>			

## 保護者・地域と学校の連携について【自由記述】

### <学校教育・学校経営・学校運営について(設問1～設問8)について>

- 3 二人の子どもが大明小に通っています。二人とも先生を信頼し、家庭訪問で先生が帰ってしま  
5 うと泣いてしまいます。各先生方が、本当に子どもたちを大切に育て、教育に当たってくれて  
6 いると心から感謝するばかりです。
- 学年によっては1学年1クラスになっているほど子どもが少なくなっています。通学時、年少の  
子どものみになるときもあるので、気をつけてできることがあればやっていきたいと思ってい  
ます。
- 1クラス40人近くの人数に先生一人ではどんなに良い先生でも手が回らないと思います。そのた  
め、トラブルや仲間はずれになる子がいると聞きました。先生の負担を軽くするということは  
できないのでしょうか。先生だってみきれないでしょうに・・
- 学校教育に関する市への要望は、今後もつづけてほしいと思います。
- 4 学校では集団生活の大切さを学んでほしいと思います。学習は、学校に行かなくてもあらゆる  
手段を使えば可能だと考えます。家庭では学べない集団のあり方を身につけることが大事では  
ないでしょうか。しかしながら、集団と個性を伸ばすという意に頭をかきしげるこの頃です。皆  
が同じではなく、一人ひとり個性があります。その個性を伸ばしていただけるようにと思って  
おります。何でも保護者に伝えることは大事かもしれませんが、教育者であるプロとしての考  
えも私たち保護者に伝えるべきではないでしょうか。家庭にも原因があるでしょうが、可能で  
あるな
- 大明小学校にお世話になるのは6年目になります。その間、校長先生をはじめ先生方の異動も  
ありましたが、今感じることは、毎年先生方に本当に恵まれたということです。感謝しており  
ます。学校の特色ですが、歴代校長先生のお考えが活動によってもよく反映されていると感じま  
す。われわれ保護者も学校開放日など、もっと積極的に学校に足を運ぶべきではないでしょ  
うか。
- 大明小学校はいろいろな意味でとてもすばらしい学校と感じています。熱心な先生方、豊かな  
心を育む教育システム。学校に伺いますと、積極的に子どもたちのほうからあいさつをしてく  
れる姿を見るたび感動します。
- 子どもたちは授業数も増え、本当に疲れて帰ってくる日が多くなったと思っています。ゆとり  
教育という言葉がなくなってしまったのだと感じています。そんな中、子どもたちなりに時間  
を見つけては遊んだり、好きなことをしたりと、一日が本当に早く終わってしまいます。学校  
での学習内容をきちんと理解できている間は良いのですが、それが続くのか、ストレスになっ  
ていくのか心配する部分もあります。学年が進むにつれ、自主学習がしっかり出来るのか不安  
になったりしています。
- 8 震災の日も、過日の引き取り訓練の日も校庭に集合してからの先生方のお話が長くて、訓練に  
なっていないと思いました。迅速に行動する訓練をしたほうが良いのでは。保育所では子ども  
も皆緊迫して行っていました。
- 8 地震等の災害が起こった場合は、学校で待機をさせてほしい。各家庭の状況により、時間は前  
後しますが、必ず親は迎えにいきます。
- 7 プリントがありすぎて無駄 兄弟がいる家庭には、高学年に配布。
- 7 1学年便りで学校での様子を写真つきで詳しく報告していただき子どもたちの様子が伝わり安心  
です。

### <子どもの様子について (設問9～設問14)>

- 14 子どもの所属する登校班は全体的に元気がないです。ボランティアで毎朝面倒を見ていただい  
ている方への「おはよう」「ありがとう」の言葉がほとんど聞こえず、とても残念です。社会  
に出ていく上で一番の基礎がおろそかにならないよう家庭でもしっかり指導していきたいで  
す。

### <家庭・学校の連携について(設問15)について>

- 15 子どもの成長には、学校と家庭との協力がそろってこそが大事だと思う。学校に任せきりにす  
るのではなく、保護者のほうも学校と連携を図るようすべきだと思います。

## 《 保護者アンケートの考察と改善策 》

全体考察	<p>ほとんどの項目でA・Bをあわせた肯定的評価の割合が高かった。概ね大明小学校の教育が保護者に理解され、評価されているとよいと考える。しかし、項目によってはAとBの割合が逆転していたり、CやDといった回答も見られる。設問4・6・11ではC評価の割合が他の質問項目に比較して高くなっている。設問1～8までは学校教育・学校経営・学校運営について尋ねた内容である。平成22年度の集計と比較してみると、まず設問1・2については、今年度のほうがA評価の割合が高くなっている。しかし、設問4～8に関しては、今年のほうが低い結果となった。とくに、5・7・8については、A評価の落ち込みが大きいため、学校としてあらためて原因を追究し、手立てを考えていく必要がある。また、設問4「学校では、子どもの長所や個性を理解し、教育に当たっている。」設問6「学校は、子どもの悩みや心配事に気づき、積極的に相談に応じている。」は、今年度、Cの評価割合が2桁になった項目である。設問11から14は、家庭や地域での子どもの姿について尋ねているが、昨年度とほぼ同様の結果となった。本年度から項目にとり上げた「子どもは早寝・早起き・朝ごはんの基本的生活習慣が身につけている」については、C評価が12.5%と高かった。昨年度から家庭と連携しながら進めてきた取り組みであるが、毎日のことであり、はっきりと結果が見える内容なので厳しい回答となったのではないかとと思われる。</p>
考察1	<p>設問4は、昨年度までは「学校では、子どもの長所や個性を伸ばすような指導が行われている。」というものであったが、昨年度の自由記述に「学校では、個性や長所を伸ばす」ことよりも集団生活のルールや意義について学んでほしい」といった意見がいくつか寄せられたため、今年度は質問を「学校では、子どもの長所や個性を理解し、教育に当たっている。」と変更してアンケートをとったが、評価結果は、昨年とほぼ同様となった。自由記述には集団の中の一人ひとりの児童の個性や特性を理解し、寄り添いながら導く教師の専門性を期待する意見も見られる。本校には、多人数のクラスもあり、担任だけではすべての児童の長所や個性を十分に把握できにくい面もある。一人ひとりを大事にし、きめ細かな対応を可能にするための学校の工夫が求められる。</p>
改善策1	<p>&lt;改善策1&gt; きめ細かな対応を可能にするため、子どもたちの現状を見据えながら、管理職は職員の配置や指導体制について柔軟に対応をしていきたい。また、全校の教職員が、児童に関するさまざまな情報を担任に伝え、指導に生かせるようにする。</p>
考察2	<p>設問6の「学校は、子どもの悩みや心配事に気づき、積極的に相談に応じている。」について、昨年度はA：41.5% B：51.2% C：7.3%であった。本年度は、A：35.4% B：45.8%、C：16.7%と昨年度に比べるとCの割合が高い傾向が見られた。学校では、毎月の第4金曜日を児童に関する情報交換の日と定め、全職員が子どもたちの情報を共有し、同一歩調で見守りや指導に当たれるようにしている。担任が気づかない児童の行動やつぶやきなども担任に伝えるようにし、児童の悩みや心配事の早期発見につなげている。また、保護者に対しては親としての悩みやとまどいを理解しながら、できるだけ相談しやすい対応を心がけ、積極的な話し合いや助言を行っていくという学校の姿勢をいっそう明確に保護者に伝えていくことが必要であると感じている。</p>
改善策2	<p>&lt;改善策2&gt; 教師は子どもの状況をていねいに見つめて課題への対応を考える。また子どものことを心配する親の気持ちを受け止め、ていねいな対応に努めるようにする。教職員と親は、ともに子どもの成長を支えるパートナーであるという意識を忘れない。学校からは、学級や学年の取り組みや子どもたちの様子などの情報提供に努めると同時に、家庭での子どもたちの生活の様子についての把握に努める。</p>
考察3	<p>設問8の「学校は、地震・災害・不審者対策をよく示している。」について、今回は、不審者対応での意見はなく、地震発生時の対応についての意見が寄せられた。地震発生時の学校の対応に不安を抱いている保護者も多いと思われる。学校では3月11日の大地震以降、児童の避難方法の反省から、地震避難マニュアルを見直して保護者にも伝えた。しかし、地震の発生時間帯によっては、対応が不明なこともあるため、マニュアルの早期の策定と保護者への情報提供が必要である。</p>
改善策3	<p>&lt;改善策3&gt; すべての保護者が地震発生時における児童の動き、学校の動き、保護者の動きが把握できるよう、早期に地震時避難マニュアルを策定し直し、情報共有する。</p>

考察 4	設問11の「子どもは早寝・早起き・朝ごはんの基本的生活習慣が身につけている」についてCと評価した割合が高い。基本的生活習慣の確立は本校の教育目標【自ら考え、活動する心豊かな子ども】を育成するための必要条件として、食育とからめながら昨年度から取り組んでいる内容である。子どもの生活時間を見直し、家庭学習の習慣化も含めた家庭と学校とが一体となった取り組みにより、少しずつ成果も出始めているところであるが、家庭によってはその重要性は理解できていても、現実にはそこまで達していないということも考えられる。
改善策 4	<改善策4> すべての学年のPTA保健目標が「早寝・早起き・朝ごはん」である。23年度の第1回学校保健委員会において校医先生からもその意義が話され、保健便りの特集号で内容を各家庭にお知らせしている。今後とも家庭と連携しながら、親だけでなく子ども自身が意識化できるよう、さまざまな機会を捉えて指導を続けていく。
考察 5	設問14の「子どもは家庭や地域の中であいさつをしている。」についてのA評価の割合が低い。昨年度も同様な傾向であった。アンケートにも地域で子どもたちのあいさつが出来ていないという意見が寄せられている。学校では児童会を中心にあいさつ運動に取り組んでおり、校内では子どもたちの元気なあいさつが交わされていて、学校に来た保護者からもあいさつがすばらしいとの声もいただいている。しかし、このあいさつ運動がなかなか地域にまで浸透していないようである。昨年度の改善策のとおり、安全パトロールの皆さんにはあいさつ運動への協力をお願いしている。
改善策 5	<改善策5> あいさつは人間関係づくりの第一歩であり、社会生活を営む上での基本的なマナーである。学校ではこれまでと同様、教師のほうからできるだけ名前呼びかけ、明るくあいさつをしていくことを続ける。また、家庭での意識づけのための取り組み、例えば親子で標語を考えるなどの具体的取り組みも必要である。

## 《 具体的な改善策 》今できるACTION (アクション)

- ① 南アルプス市教育委員会では、市単独講師を派遣していただいています。その市単講師の担当学年時数を見直し、二学期より4年生に2時間だけですが多く配置するようにしました。具体的には、4年生の算数の5時間すべてに、担任と一緒に学習の補助を行います。
- ② 新学習指導要領の完全実施に伴い、従来より週当たりの授業時数が、1・2年生が+2時間、3年生以上が+1時間増え同時に内容も増加しています。教科書も厚くなっているというような報道もお聞きの方も多と思います。国の文部科学省の方針を受け、教職員一同、創意工夫をしわかる授業に心がけ、児童の状況をよく観察し、望ましい学級や学年集団づくり、縦割り活動など全校児童による学校集団づくりに心がけてまいります。
- ③ 地震対応について、本校の校舎は、体育館も含めてすべて耐震基準を満たしております。地震が起きた場合の行動パターンについて見直しを行いましたので、早急にお知らせいたします。また、休み中に地震が起きた時に家族でどのように行動するかなどよく話し合ってお確かしておいてください。
- ④ 「早寝、早起き、朝ごはん」運動や、地域や家庭での「あいさつ」については、ぜひ家庭でもご指導のほどをよろしく願いいたします。特に登校班のあいさつについてもよろしく願いいたします。
- ⑤ 保護者の皆様と担任や学校ときめ細かく話し合いをする機会を今後もっと多くしていきたいと思っております。11月17日(木)の「地域ふれあい道徳公開」の時に「親学習プログラム」による少人数による話し合い活動を計画しました。ぜひ多くの方々に参加して欲しいと思っております。また、来年度の年間計画作成時に、個別懇談会・学年、学級部会などをバランスよく計画していきたいと考えています。
- ⑥ プールの日除けがありませんので、紫外線対策として予算要求していきます。